

令和2年度

自己点検・評価書  
(学校評価報告書)

附属高等学校天王寺校舎

## 1 附属高等学校天王寺校舎の現況

### (1) 学校名

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

### (2) 所在地

大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

### (3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員480人(1学級40人)

### (4) 幼児・児童・生徒数

486人(男子241人・女子245人) (令和2年4月1日現在)

### (5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 教諭 29人(うち, 臨時的雇用6人, 育児休業2人, 再雇用職員2人), 非常勤講師 10人

事務職員 3人(専任1人, 事務補佐員2人), 臨時用務員(用務員) 2人

## 2 附属高等学校天王寺校舎の特徴

本校は、開校以来附属天王寺中学校とともに6年一貫教育の研究、実践を続けてきた。また、平成21年度よりSSHの指定を受け、現在SSHの目的にそった教育研究を継続している。

生徒の自主性を重んじ、多様な経験と活発な議論を通じて、時代を問わず通用する生きる力と、自律的に責任を持って行動する力を育てることを目指している。

## 3 附属高等学校天王寺校舎の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となって、教育の理論と実際に関する研究を行うこと。
- (2) 本学の教育実習機関として、実習生を随時受け入れ、適切な指導を行うこと。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てること。
- (4) 本学が行う現職教員の再教育の一端を担うこと。

## 4 附属高等学校天王寺校舎の学校教育目標

- 正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。
- 強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。
- 他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。
- 社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。

## 5 附属高等学校天王寺校舎の学校教育計画

1. 生徒の学力と、「生きる力」を育てる活動を、各教科・分掌で工夫し、実践する。また、生徒会・自治会やホームルーム等の集団における、生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を支援する。
2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択とその実現に向けた取り組みを行う。
3. 学校独自の取組を通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

6 附属高等学校天王寺校舎令和2年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正義を愛し, 真理を追究する旺盛な向学心をもち, 透徹した判断力を養う。</li> <li>●強固な意志をもち, 頑健な心身を育て, 自主的・積極的な実践力を身につける。</li> <li>●他人を愛し, 自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。</li> <li>●社会の一員となるための, 責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。</li> </ul>
学校教育計画	1. 生徒の学力と, 「生きる力」を育てる活動を, 各教科・分掌で工夫し, 実践する。また, 生徒会・自治会やホームルーム等の集団における, 生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を支援する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 生徒の学力向上と, 自律的な学習・生活習慣 の確立を進める。特に, 自宅学習における自立 性, 主体性の育成を図る。	休校期間にオンライン授業やオンラインでの面談を行う。家庭での規則正しい学習習慣を維持し, 登校しなくても生徒の状況を把握する体制の構築を図る。(全体)	ICTを利用して, 休校中であっても規則正しい学習を習慣づけることができた。到達目標については担当者ごとに異なり, 統一はできなかった。 HRや面談にもオンラインを取り入れ, 生徒の様子を継続的に把握できた。	ICTに関する教員の技能を高める必要がある。また, ICT利用による効果や, ふさわしい教材, 教授方法をさらに探求する必要がある。予習復習した成果の可視化を研究する。	B	ICT利用に関する取り組みを早くから行っており, 生徒が慣れてきたということの効果が高かった。A評価でよい。	A	
	年間通じてオンラインでの課題配布を行い, 家庭での学習を充実させる。オンライン質問会で生徒の疑問に答える。(数学)	休校中の自宅学習を充実させることについては達成できた。	全生徒のオンライン学習実施に必要な条件整備を進めるとともに, 端末使用の可能性と問題点をさらに明らかにする。	B	特になし	B	
	中高一貫した到達目標の設定を行い, 主体的自律的な学習を進める指導を行う。(英語)	到達目標を意識した年間カリキュラムの実施や評価ルーブリックの提示, ICTの利用により, 生徒に単元の見通しを持たせることができた。	到達目標が教員個々のものにとどまっているものを, 教科として統一したものにすることを目標に協議する。	C	特になし	A	
	課題解決的な授業を推進する中で自律的な行動力を育てる。オンライン授業に適した動画教材を作成する。(体育)	コロナ禍で可能な種目が限られる中で授業形態を工夫した。生徒の積極的な参加が見られた。	ほとんど手がけられなかった, オンライン授業に向けた教材開発を進める。	B	特になし	A	
	自治会活動を筋道立てて行わせる中で自主自立に根差した集団を作る。(生指)	例年と異なる状況の下で, 条件をふまえた指導を行った。	生徒の議論を活性化させるための時間確保が必要である。	A	先生方が遅くまで指導していただいた。	A	

(2)互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、協働を通じて個々の生徒の力量を十分に発揮させる。	数学を学ぶことの意欲を高めるため、観察や操作、実験を通じて数や図形の意味を見出す活動を取り入れる。(数学)	事象の抽象化の課題を設定することで意欲を高めた。また、生徒による問題作成など、主体的な取り組みも進められた。	観察や操作、実験などを取り入れられる単元や場面を増やすことを検討する。	A	特になし	A	
	生徒実験を通じて生徒の力を発揮させるとともに、協働的な活動において、対面、ICT利用の両方を活用する。(理科)	協働的な活動においてオンラインでも可能な教材開発を行い、その効率化や質的向上に取り組めた。	取り組みを継続するとともに、小中高の連携で質の向上を図る。	B	特になし	B	
	「まずやってみよう」というスローガンを掲げ、グループ活動や発表の機会を増やして表現の喜びを実感させる。(音楽)	少人数でのアンサンブル教材を多く取り上げ、自己表現力を高める取り組みを進めた。	演奏を多くの人に聴いてもらう方法を検討するとともに、大学との連携で多様な発表の場を作る。	A	特になし	A	
	自治会活動の諸場面での議論を通じて、自他を尊重しながら必要な選択決定を行わせ、見通しを持って物事に取り組む力を育てる。(生指)	コロナ禍の状況を常に意識し、情報収集しながら、生徒の自主性を尊重しつつ、安全な自治会行事を実施する方策を考えさせた。	さらに生徒間の議論の活性化を図る。	A	特になし	A	
	課題研究の授業だけでなく、一般教科の授業においても課題発見、提起に主体的に取り組ませる。対話的な学習の方法と内容に関する研究を進める。(研究)	課題研究は計画通り進めた。対話的な学習について、教科内での情報交換は行ったが、学校としてのとりまとめはできなかった。	中高教員による情報交換の場を、研究部が設定し、学校としての取り組みに発展させる。	B	特になし	B	
	課題研究における個性と能力を伸ばす指導法、異学年集団の指導法を担当者会議で検討する。(SSH)	プルーフIIで担当者会議を3回開催した。指導法の振り返りを行った。総合プルーフでも担当者会議を行った。	担当者会議の論点を絞り、指導法に対する効果を明らかにする。会議を他の科目でも実施する。	A	特になし	A	
中高6年間の人権教育カリキュラムを検討、作成する。(健人)	コロナ禍のため人権教育行事がほとんど実施できなかった。ジェンダー問題などをテーマとして講演会を実施した。	オンラインでの講演会開催などを検討する。6年間で取り組むべき人権課題を明らかにする。	B	特になし	B		

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。</li> <li>●強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。</li> <li>●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。</li> <li>●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。</li> </ul>
学校教育計画	2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択とその実現に向けた取組を行う。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 将来の目標を見据えた進路意識を高めさせ、その実現に向けた支援を行う。	成績処理のルールを徹底を図り、日常の成績記録から進路資料作成までの手続きの不備をなくす。(教務)	成績処理のルールはほぼ徹底できた。	非常勤講師への説明、周知に漏れがないようにする。	B	特になし	B	
	進路部管理の部屋を再整備し、機能強化することと、進路指導業務の整理改善を図ることで、進路指導の支援体制を強化する。(進路)	進路指導室と北自習室の役割見直しを行った。推薦入試や調査書等の作成業務のエラーを起こさないための手続き業務改善を行った。	職員室における進路資料の活用法を再検討する。教員の進路指導業務の整理を進める。	A	特になし	E	
(2) 生徒と教員が協働して健康と安全を意識した教育環境の整備を図る。	実験・実習における安全確保の意識を高める。新たな生活様式に対応した実験指導を行う。(理科)	保護メガネの全員購入、実験方法の工夫など、安全対策を取りながら対話的・協働的な授業を実施した。	取り組みを継続し、質を高める。	A	特になし	A	
	スマホの利用に関する調査を行い、現状の把握を行う。(全体)	大阪スマホアンケートの本校版を作成して実施した。結果はWEBサイトを通じて保護者に公表した。	現状の把握だけでなく、生活習慣や学習との関係を分析し、指導すべき内容を検討する。	A	特になし	A	
	老朽化している体育施設の補修や器具の安全点検を行う。	校舎改装の機会を利用して点検を行い、器具の整理整頓を進めた	生徒にも器具の管理に触れる機会を作り、主体性を養う。	A	特になし	A	
	距離を確保した活動環境を整えるために、物品の整理を進め、音楽室等の授業場所の整備を進める。(音楽)	物品の整理や保管場所の工夫により。音楽室内の活動スペースを確保した。	物品の整理を進めるとともに、行事や部活動との関係を踏まえて環境整備を進める。	B	校舎改修工事の不自由さの中でできる限り努力していた。	A	
	防犯計画を危機管理マニュアルに組み込む。減災、防犯などの安全意識を高める取り組みを行う。(健人)	近年発生した災害の経験を活かし、マニュアル改訂の方針を検討した。コロナ禍のなか、ICTを利用した防災教育を行った。	防災マニュアルの見直しを継続する。防災訓練の効果を高める方法を検討する。	B	今年度はコロナでできなかったが小中高連携の訓練もしている。	A	

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。</li> <li>●強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。</li> <li>●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。</li> <li>●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。</li> </ul>
学校教育計画	3. 学校独自の取組を通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 現代的な学力観に対応した教科指導法の工夫と、カリキュラム全体の改善を図る。また、ICTを活用した学習指導の実践を進め、その効果と課題を探る。	生徒が主体的・能動的に活動できる課題設定を行い、ICT利用の場面でも、自律的協働的に活動する精神を育てる。(国語)	言葉にとどまらない自己表現を行う授業をICTを活用して実践し養育研究会で発表した。	教材をより深く分析し、ICT利用の効果を上げるための研究が必要である。	A	特になし	A	
	科会や小中高研究部会を活用し、情報共有を進める。ICT利用の実践を進める。(理科)	科会は十分活用できた。ICT機器を利用した教材開発も進んだ。教育研究会で、オンラインでの協議方法を試行した。	取り組みを継続する。中高6年間のカリキュラムの整理と最適化に取り組む。	B	早くから取り組みが出来ている。	A	
	英語5領域を統合した授業方法、ICT活用法と、多面的評価方法の模索を行う。(英語)	GoogleClassroomを含めたICTツールの利用を進め、授業方法の改善に向けた研鑽を行った。	より好奇心を高めるためのICT活用を進める。	B	先進的な取り組みが出来ていた。A評価でよいと考える。	A	
	ダンス等の授業でiPadを利用し、動作の改善につながるようなICT活用を進める。(体育)	授業での動画撮影を行い、技術的な向上につながる事ができた。	ダンス以外の種目でのICT活用を検討する。	A	特になし	A	
	指導要領改定に対応した新しい教育課程を編成する。オンラインでの学習の円滑化を図る。(教務)	自宅学習期間に、提示したオンライン教材の一覧を作成し、学習の不安を取り除いた。	教務部とカリキュラム委員会との連携を強める。	B	特になし	B	
	課題研究におけるICT活用を進め、効果と課題を探る。今までのSSHの成果のうち、今後引き継ぐべき要素を明らかにする。(SSH)	課題研究ではICTが積極的に用いられている。新課程での位置付けや実施内容は検討中である。	ICT活用を進めるとともに、アンケート調査を行う。次年度の申請に向けた課題を探る。	B	特になし	B	
(2) 社会の国際化や多様化に対応する力の育成に向けた取組を進める。	社会問題等をテーマとした協働学習を取り入れ、多様性の尊重の態度を育成する。(英語)	対話的な学びを通して発信力を強化したり、相互理解を深めたりする指導法を教科として共有できた。	教育研究会での協議を生かした実践を進める。コミュニケーション力を高める指導を継続する。	B	特になし	A	
	ICT活用実践に関するアンケート調査を行い、事例を蓄積する。ICTの教育的効果を検証する取り組みを行う(研究)	生徒、保護者、教員に対するアンケート調査を行い、成果や課題の分析結果を教育研究会で発表した。	さらに分析を進めデータを共有し、普段の授業に生かす取り組みを行う。	A	特になし	A	
	海外提携校との共同研究を、相互訪問が困難な状況下で、ICTを活用して推進し、今後の可能性を探る。(SSH・国際)	海外研修がすべて中止となる中、リモートによるタイとの授業交流を行った。オンラインでの文化交流も実施した。	リモートでの海外との交流の在り方をさらに検討し、試行する。	A	特になし	A	

(3)本校の実践を広く地域に発信するとともに、教育実践・地域活動での地域との連携を進める。	本校の理念や特徴を伝え、生徒の活動について知ってもらえるように広報活動を進める。(全体)	大阪府進学フェアの形態が変わったことを受けて、新しく広報スライドを作成するとともに、生徒の声を取り入れたページを付加した。	生徒の自主性を生かしながら、創意工夫した広報資料を制作することができた。	A	特になし	A	
	「附属天王寺型一貫教育のためのICT機器を活用した学校運営・教育の模索」をテーマとして教育研究会を行い、深い学びへの効果と課題を探る。(研究)	コロナ禍のため、事前録画映像とオンライン協議を併用して、新しい形の研究会を開催した。ICTを深い学びに結び付ける事例を提案でき、好評を得た。	次年度の研究テーマ「一貫教育」における、「深い学び」や「ICTの活用」の位置づけを検討して取り組む。	A	特になし	A	
	「科学のもり」発表会だけでなく、HPを充実させることで発信力を強化する。指導法や教材を公開する。(SSH)	宿泊を伴う研修がすべて中止となることで、HPへの掲載が減少した。日常的な活動については、生命論のブログ掲載や、報告会の発表の映像化を行い、大学のサイトにも掲載した。生徒の成果物をデータベース化して公開する準備を進めている。指導法の公開も準備中である。	データ公開をさらに進め、外部からの評価を受ける。	B	特になし	A	

学校関係者評価における意見	<p>教科書には載らない、公共の心を育てる教育が行われていると思っている。その中でリーダーシップを発揮する子供が出てくる。保護者もそのことをよく理解しているので、共同で学校を作っていく場面がもっと増えたらよいと思う。</p> <p>名物先生といえる先生がなかなか定着しにくい人事制度になっているが、力のある先生、個性的な先生をもっと集められるようにしてもらいたい。</p> <p>生徒は外来者に対してよく挨拶をしてくれ、教室も整頓されてよい環境になっていると感じる。</p>
---------------	---



